



## 『技能と技術』の42年

未曾有の経済危機といわれるなか、近年のわが国の社会・経済環境を振り返ってみますと、時代の移り変わりの激しさを感じずにはられません。

経済のグローバル化に伴い、ものづくりの現場が海外へ移転する「産業の空洞化」が危惧され、また、団塊世代の大量退職の時期を迎えて「いかに技能を伝承していくか」が大きな課題とされるなど、少子・高齢化とともに、高度情報化や技術革新による産業構造の変化は著しいものとなっています。

本誌『技能と技術』は、昭和41年11月に創刊され、爾来42年にわたり発行し多くの方々にご愛読いただいてまいりましたが、通巻255号となる今号が印刷物としての最後の発行となります。

顧みれば、『技能と技術』誌の創刊時はまだ戦後の高度経済成長期の真只中でした。創刊号の巻頭に掲載されたお三方の寄稿——和田勝美・労働省職業訓練局長「発刊に際して」、万仲余所治・雇用促進事業団理事長「発刊の挨拶」、成瀬政男・職業訓練大学校長「技能の火 技術の火」に今改めて目を通してみると、隔世の感があると同時に、核心の部分には現在に通じる不変＝普遍の要素が存在することを感じることもできます。

技術を実現するためには技能が必要です。技術の進歩（技術革新）とたゆみない技能の向上がわが国の産業を持続的に発展させてきたといつてよいでしょう。「技術」は日進月歩であり、従来の「技能」は次々と「技術」化されていく過程にあるのかもしれませんが、新たな技術に対応した高度な技能とその精神が必要とされることに変わりはありません。

「技能」と「技術」が車の両輪であるように、「不易」と「流行」も両者があってはじめて物事が成り立ちます。不変のもの（不易）と、時代に即し状況に対応したもの（流行）、どちらが欠けても「ものづくり」は進んでいきません。

本誌の創刊当時の製作手段は活版印刷でしたが、現在ではすべてデジタル化されDTPで製作しています。これも世の中の技術革新による変遷を反映し

ているものですが、「指導員の現場の声を伝える」という核にある情報伝達のスピリッツは全く変わりません。

職業能力開発技術誌と銘打った本誌は、指導員等職業能力開発担当者相互の交流と業務の充実発展に資する——とその発行目的を掲げています。歴代の編集ご担当者の多大なご尽力をはじめ、ご寄稿いただいた方、また、さまざまなご協力をいただいた多くの皆さまのおかげをもって、常に職業能力開発の現場の方々に対して役に立つ、意義深い情報を継続して発信してこられたことは、発行者としていささかなりとも自負できるものと思っております。

私自身、専門的な部分の理解に至らないにせよ、時に誌面から伝わる指導員の熱い思いや的確に技能、技術を論ずる実践報告に感銘を受けてきた1人です。

「職業訓練」は現在では「職業能力開発」といわれるようになりましたが、42年にわたり本誌はその現場の歴史とともに歩み、そこに携わる人々の足跡を残してきました。

この場をお借りし、長年ご購読いただいた読者の皆さまに対し衷心より御礼と感謝を申し上げるものであります。

今後は、引き続きインターネット上でデジタルコンテンツとして能力開発研究センター様より提供されることとなります。これもまた時代の要請ということなのでしょう。

利便性、機能性、即時性等に優れた新生『技能と技術』が、時代に必要とされる「技能」と「技術」の発展的融合の真価とその具体的成果を世に発信し続けることを願ってやみません。

みやうち まさよし

略歴

昭和35年

平成14年より

社団法人雇用問題研究会 入職

現職